

育ち・暮らし・老い

人生を支える生涯健康 **脳**

アンケート報告書

2015年

2月7日 (土)

10:00～18:00

学術総合センター



文部科学省 第7回 脳科学研究戦略推進プログラム 公開シンポジウム
『育ち・暮らし・老い ～人生を支える生涯健康脳～』
アンケート調査報告書

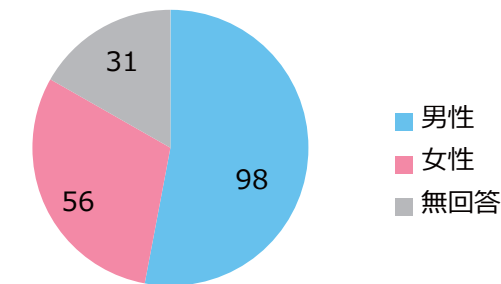
【調査目的】

『第7回 脳プロ 公開シンポジウム』に対する参加者の印象や評価を調査し、
今後のシンポジウム・アウトリーチイベント開催の参考とするため。

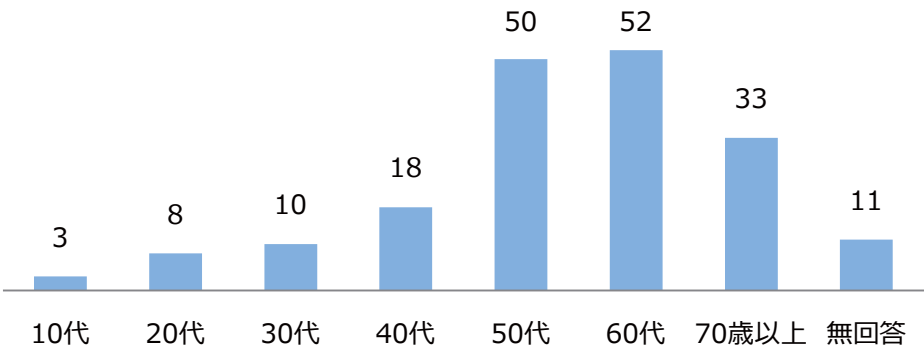
【アンケート対象者】

シンポジウム参加者313名にアンケートを配布。うち185名から回答を得た。（回収率59.1%）
※当日会場で回収したものを対象としています。
（単位:人）

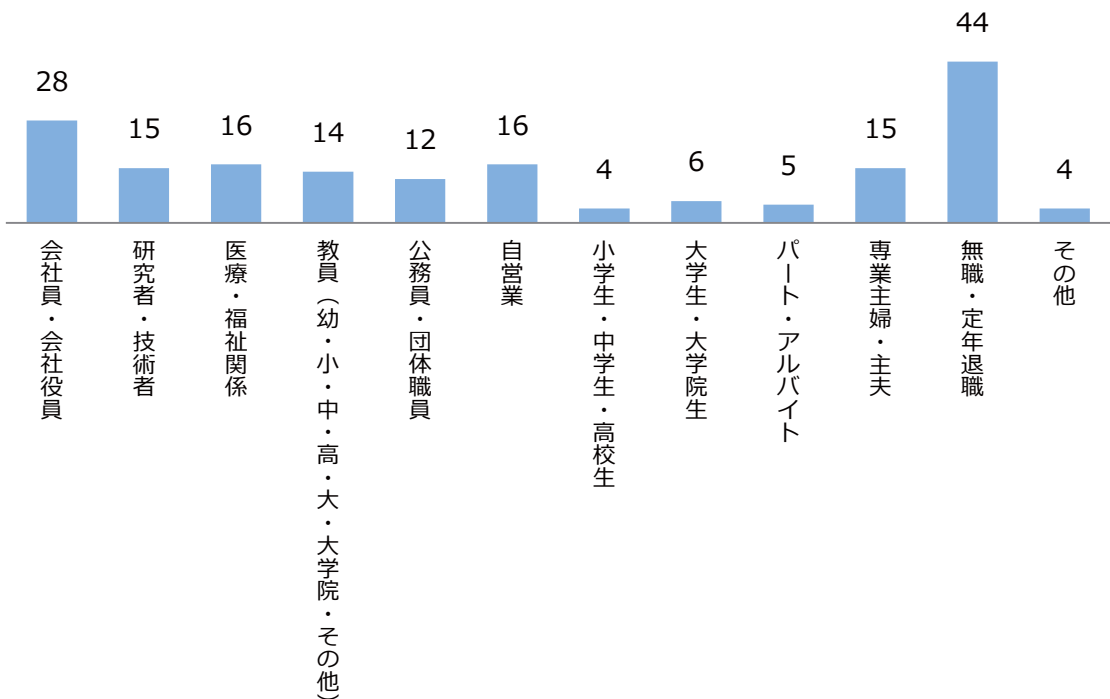
【性別】



【年齢】



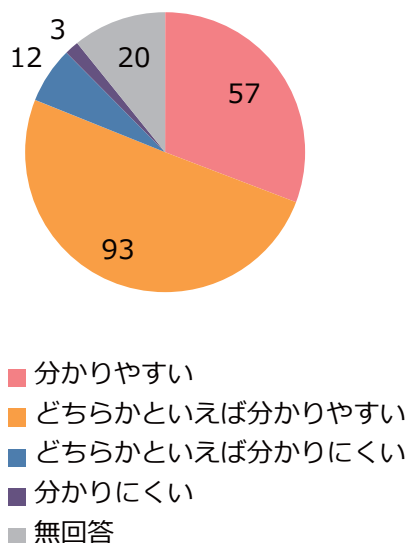
【職業】



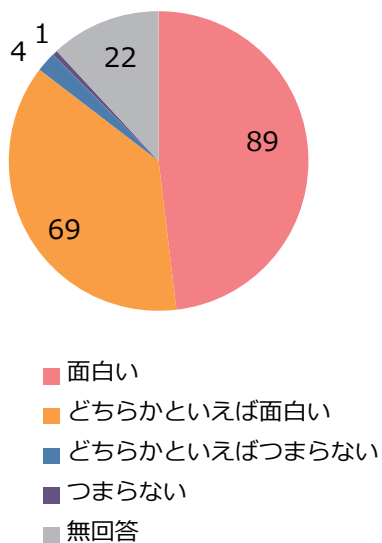
【アンケート結果】

1. シンポジウムの内容について（シンポジウム参加者のみ回答）

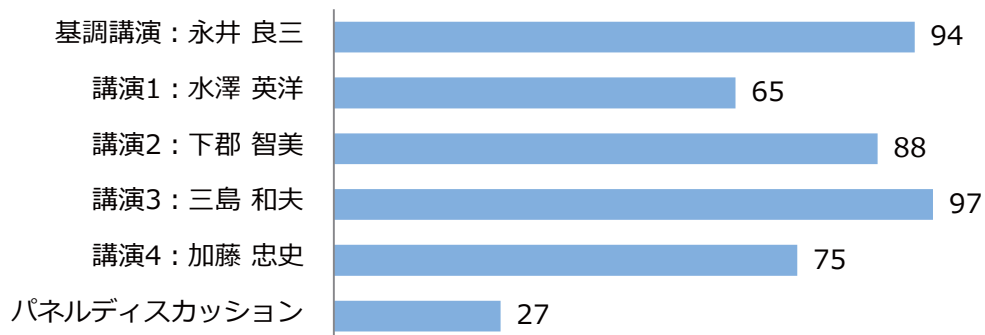
a. 内容は分かりやすかったですか？



b. 内容は面白かったですか？



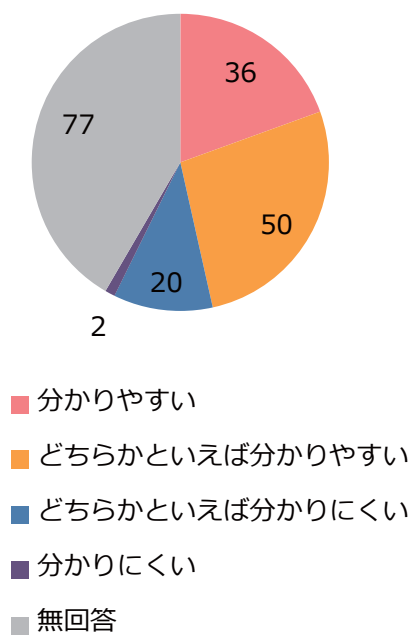
c. 特に印象に残ったプログラムはありましたか？（複数回答可）



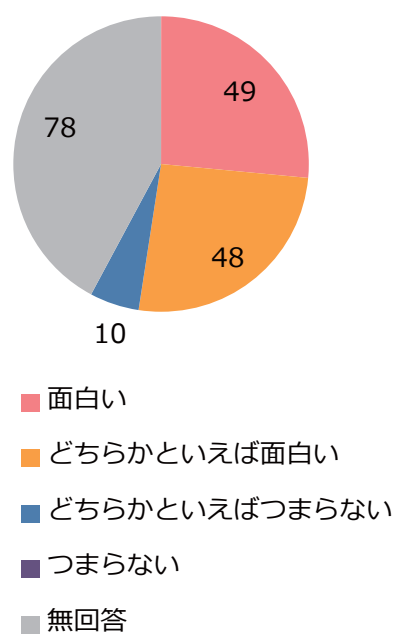
「生活習慣病と脳」永井 良三
「生涯にわたる脳の健康を目指して」水澤 英洋
「環境で変わる健康な脳発達—その分子機構—」下郡 智美
「睡眠と体内時計の機能を知り、個の生活と医療に生かす」三島 和夫
「脳とエピジェネティクス—遺伝と環境が作り出す心のメカニズム—」加藤 忠史
パネルディスカッション「一生を通じての脳と心の健康について」

2. 展示の内容について（展示参加者のみ回答）

a. 分かりやすかったですか？

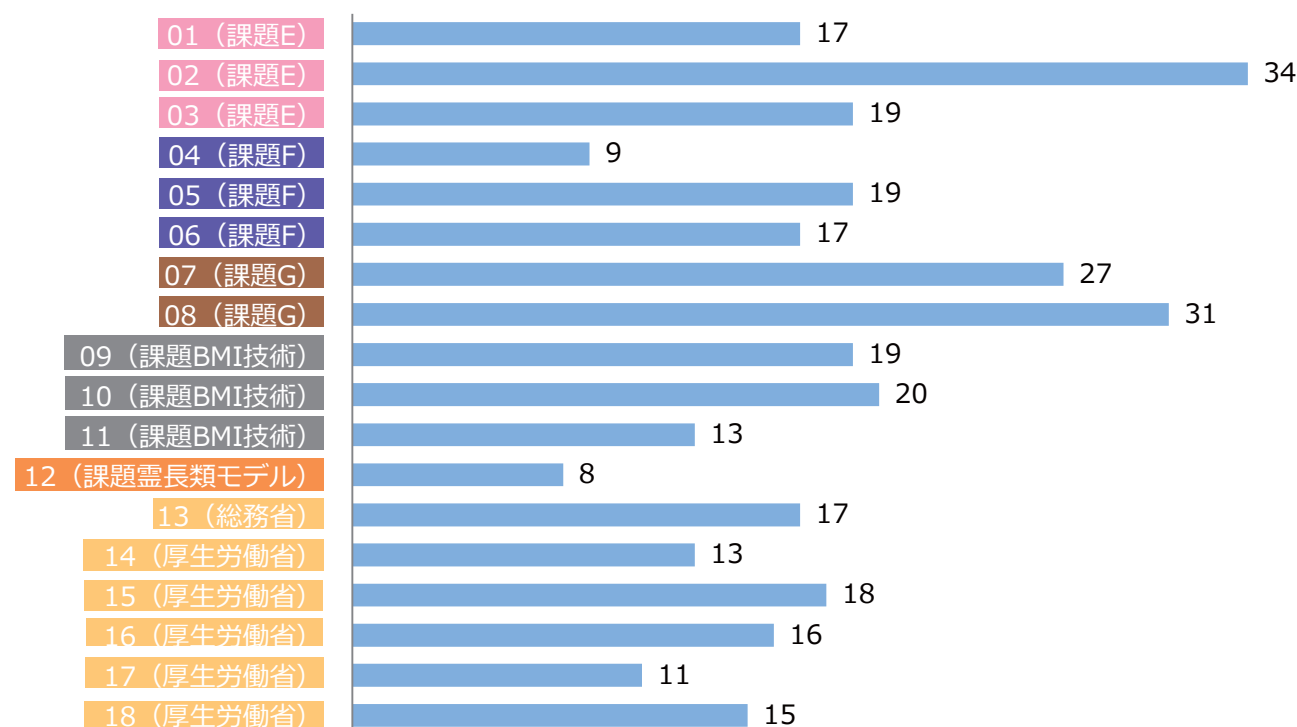


b. 面白かったですか？



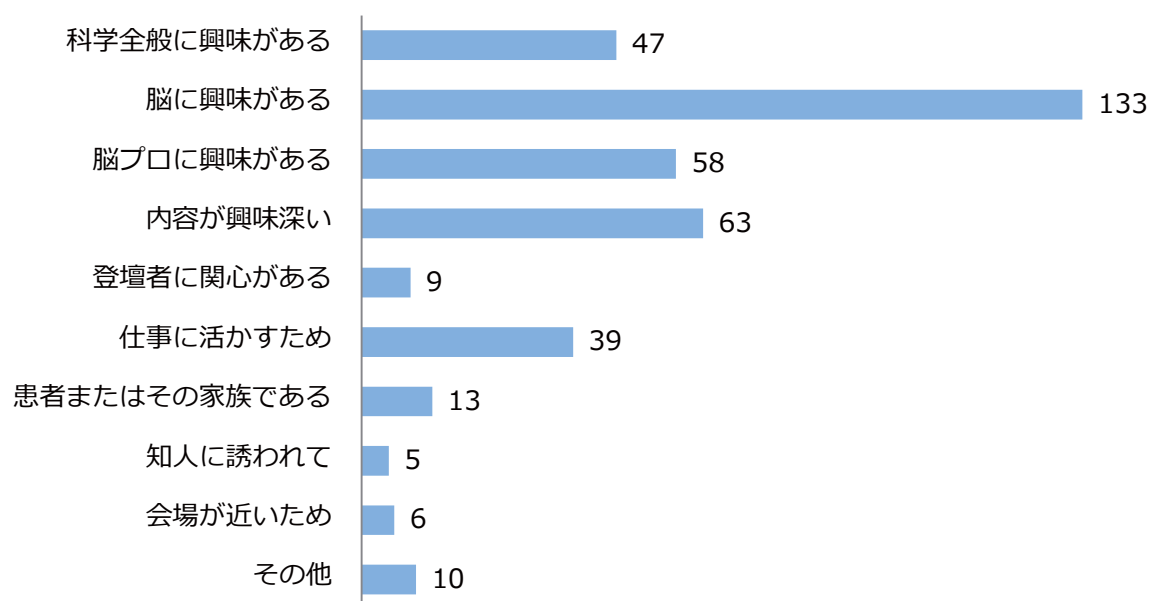
（次頁につづく）

c. 特に印象に残った展示はありますか？（複数回答可）

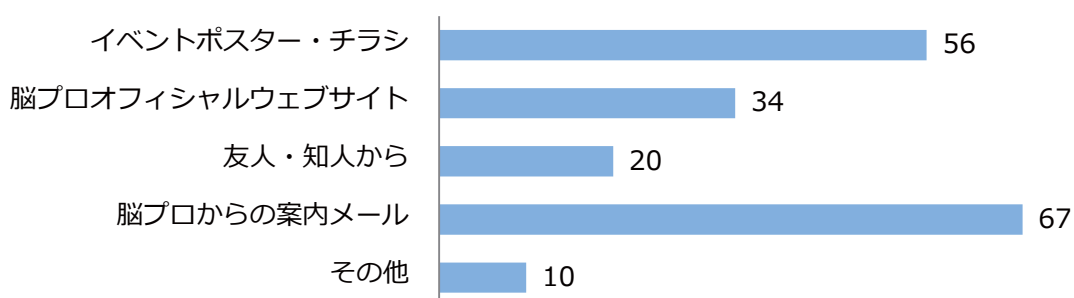


01 課題 E	環境からみた脳神経発生・発達の健康からの逸脱メカニズムの解明 遠山 千春 東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 健康環境医学部門
02 課題 E	うつ病とストレス反応における遺伝と生活習慣に関する研究 功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第三部
03 課題 E	発症早期のアルツハイマー病におけるコア病態タンパク質とコア病態ネットワークの解明 岡澤 均 東京医科大学 難治疾患研究所 神経病理学分野
04 課題 F	てんかんを伴う自閉症関連遺伝子の同定と解析 山川 和弘 理化学研究所 脳科学総合研究センター 神経遺伝研究チーム
05 課題 F	脳画像データを用いたうつ病の診断法：機械学習法の視點 銅谷 賢治 沖縄科学技術大学院大学 神経計算ユニット
06 課題 F	アルツハイマー病の脳病理形成を規定する遺伝子産物 KLC1 スプライスバリエント E (KLC1E) の発見 武田 雅俊 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学
07 課題 G	ドーパミンによる報酬作用の脳内における仕組み 河西 春郎 東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 構造生理学部門
08 課題 G	脳は好き嫌いをどのように判断するのか？ 榎本 和生 東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻 脳機能学分野
09 BMI 技術	体内埋込装置による運動・コミュニケーションのサポート 吉峰 俊樹 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科
10 BMI 技術	ブレイン・マシン・インターフェースで運動障害を治療する 里宇 明元 慶應義塾大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学教室
11 BMI 技術	脳画像検査に基づく精神疾患バイオマーカーの開発と臨床応用のための研究 八幡 憲明 東京大学大学院医学系研究科 ユースメンタルヘルズ講座
12 霊長類モデル	遺伝子改変マウスモデルの汎用性拡大および作出技術の高度化とその脳科学への応用 佐々木 えりか 実験動物中央研究所 応用発生学研究センター
13 総務省	日常生活の支援を目指すネットワーク型ブレイン・マシン・インターフェース 石井 信 国際電気通信基礎技術研究所 認知機構研究所
14 厚生労働省	精神疾患の客観的補助診断法の開発研究 橋本 亮太 大阪大学 連合小児発達学研究所 / 笠井 清登 東京大学医学部附属病院 精神神経科
15 厚生労働省	うつ病の病態を反映する血中バイオマーカーの開発・実用化研究 神庭 重信 九州大学大学院医学研究科 精神神経医学分野
16 厚生労働省	血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究 橋本 謙二 千葉大学 社会精神保健教育研究センター 病態解析研究部門
17 厚生労働省	うつ病診断を血液検査所見で補助する 一白血球 mRNA 発現と DNA メチル化を利用して 大森 哲郎 徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 精神医学分野
18 厚生労働省	高齢者うつ病の診断と治療評価のための分子イメージングの開発 大久保 善朗 日本医科大学大学院医学研究科 精神・行動医学

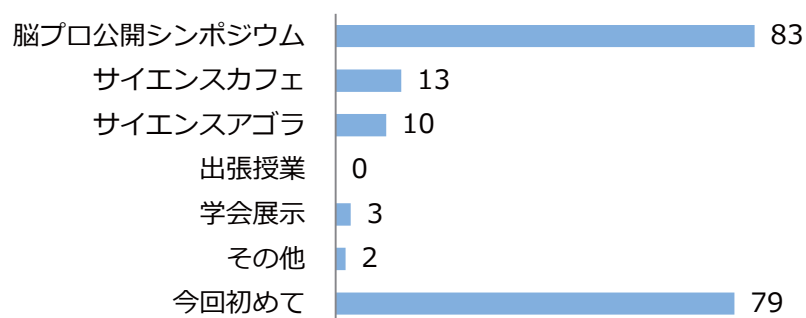
3. シンポジウムに参加された動機は？（複数回答可）



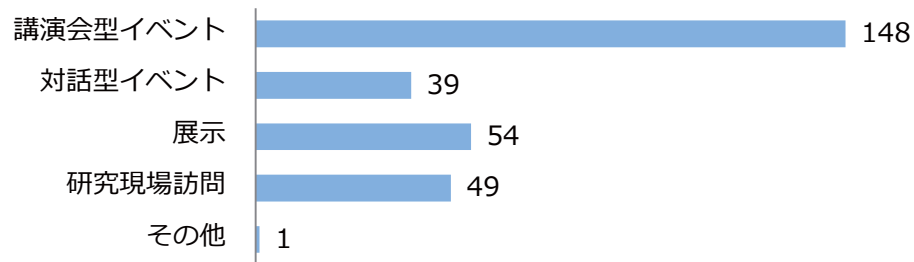
4. 本シンポジウムをどちらでお知りになりましたか？（複数回答可）



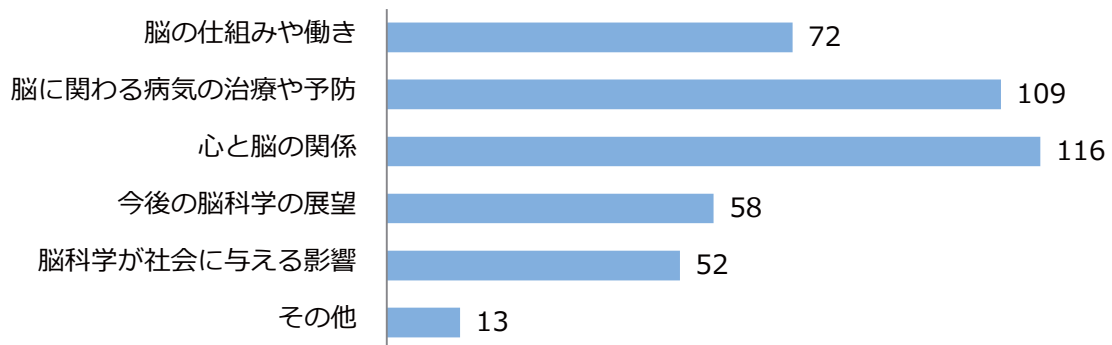
5. これまでに脳プロのイベントへ参加されたことはありますか？（複数回答可）



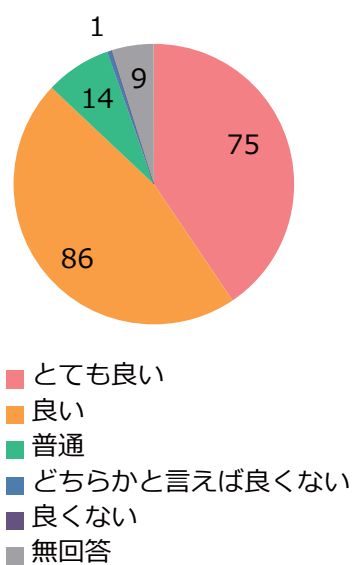
6. 今後、どのようなイベントに参加してみたいですか？（複数回答可）



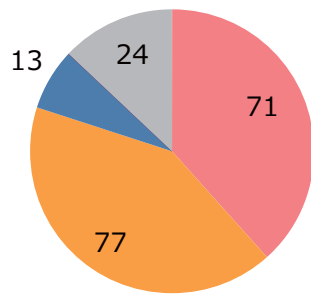
7. 今後、どのような内容の講演を聞いてみたいですか？（複数回答可）



8. 会場はいかがでしたか？（立地・広さ・設備・雰囲気）



9. 当日配布したプログラム（抄録）は分かりやすかったですか？



- 分かりやすい
- どちらかと言えば分かりやすい
- どちらかと言えば分かりにくい
- 分かりにくい
- 無回答

(以上)



文部科学省 脳科学研究戦略推進プログラム 第7回 脳プロ公開シンポジウム 『育ち・暮らし・老い ～人生を支える生涯健康脳～』

※第7回 脳プロ公開シンポジウムへの御参加ありがとうございました。

皆様の御意見を今後の脳プロの活動の参考にさせていただくため、以下のアンケートに御協力をお願いします。

集計結果は脳プロオフィシャルウェブサイトにて、公表させていただきます(個人を特定できる情報は公表いたしません)。

なお、アンケート結果は本事業に関連する目的以外には使用いたしません。

1. シンポジウムに参加された方へ

a. 内容は分かりやすかったですか？

1. 分かりやすい 2. どちらかと言えば分かりやすい 3. どちらかと言えば分かりにくい 4. 分かりにくい

b. 内容は面白かったですか？

1. 面白い 2. どちらかと言えば面白い 3. どちらかと言えばつまらない 4. つまらない

c. 特に印象に残ったプログラムはありましたか？(複数回答可)

1. 「生活習慣病と脳」永井 良三
2. 「生涯にわたる脳の健康を目指して」水澤 英洋
3. 「環境で変わる健康な脳発達 –その分子機構–」下郡 智美
4. 「睡眠と体内時計の機能を知り、個の生活と医療に生かす」三島 和夫
5. 「脳とエピジェネティクス –遺伝と環境が作り出す心のメカニズム–」加藤 忠史
6. パネルディスカッション「一生を通じての脳と心の健康について」

2. 展示・体験に参加された方へ

a. 内容は分かりやすかったですか？

1. 分かりやすい 2. どちらかと言えば分かりやすい 3. どちらかと言えば分かりにくい 4. 分かりにくい

b. 内容は面白かったですか？

1. 面白い 2. どちらかと言えば面白い 3. どちらかと言えばつまらない 4. つまらない

c. 特に印象に残った展示はありますか？(複数回答可)

01. 「環境からみた脳神経発生・発達の健康からの逸脱メカニズムの解明」遠山 千春
02. 「うつ病とストレス反応における遺伝と生活習慣に関する研究」功刀 浩
03. 「発症早期のアルツハイマー病脳におけるコア病態タンパク質とコア病態ネットワークの解明」岡澤 均
04. 「てんかんを伴う自閉症関連遺伝子の同定と解析」山川 和弘
05. 「脳画像データを用いたうつ病の診断法：機械学習法の視点」銅谷 賢治
06. 「アルツハイマー病の脳病理形成を規定する遺伝子産物KLC1 スプライスバリエントE (KLC1E) の発見」武田 雅俊
07. 「ドーパミンによる報酬作用の脳内における仕組み」河西 春郎
08. 「脳は好き嫌いをどのように判断するのか？」榎本 和生
09. 「体内埋込装置による運動・コミュニケーションのサポート」吉峰 俊樹
10. 「ブレイン・マシン・インターフェースで運動障害を治療する」里宇 明元
11. 「脳画像検査に基づく精神疾患バイオマーカーの開発と臨床応用のための研究」八幡 憲明
12. 「遺伝子改変マウスモデルの汎用性拡大および作出技術の高度化とその脳科学への応用」佐々木 えりか
13. 「日常生活の支援を目指すネットワーク型ブレイン・マシン・インターフェース」石井 信
14. 「精神疾患の客観的補助診断法の開発研究」橋本 亮太／笠井 清登
15. 「うつ病の病態を反映する血中バイオマーカーの開発・実用化研究」神庭 重信
16. 「血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究」橋本 謙二
17. 「うつ病診断を血液検査所見で補助する –白血球mRNA 発現とDNA メチル化を利用して–」大森 哲郎
18. 「高齢者うつ病の診断と治療評価のための分子イメージングの開発」大久保 善朗

3. 本イベントに参加された動機は？(複数回答可)

1. 科学全般に興味がある 2. 脳に興味がある 3. 脳プロに興味がある 4. 内容が興味深い
5. 登壇者に関心がある () 6. 仕事に活かすため 7. 患者またはその家族である
8. 知人に誘われて 9. 会場が近いため 10. その他 ()

裏面に続きます。

4. 本イベントをどちらでお知りになりましたか？（複数回答可）

1. イベントポスター・チラシ 2. 脳プロオフィシャルウェブサイト 3. 友人・知人から 4. 脳プロからの案内メール
5. その他（ ）

5. これまでに脳プロのイベントへ参加されたことはありますか？（複数回答可）

1. 脳プロ公開シンポジウム 2. サイエンスカフェ 3. サイエンスアゴラ 4. 出張授業 5. 学会展示
6. その他（ ） 7. 今回初めて

6. 脳科学分野において、今後どのようなイベントに参加してみたいですか？（複数回答可）

1. 講演会型イベント 2. 対話型イベント 3. 展示型イベント 4. 研究現場訪問 5. その他（ ）

7. 今後、どのような内容の講演を聞いてみたいですか？（複数回答可）

1. 脳の仕組みや働き 2. 脳に関わる病気の治療や予防 3. 心と脳の関係 4. 今後の脳科学の展望
5. 脳科学が社会に与える影響 6. その他（ ）

8. 会場はいかがでしたか？（立地・広さ・設備・雰囲気等）

1. とても良い 2. 良い 3. 普通 4. どちらかと言えば良くない 5. 良くない

御意見・御感想があればお聞かせください。

9. 当日配布したプログラム（冊子）は分かりやすかったですか？

1. 分かりやすい 2. どちらかと言えば分かりやすい 3. どちらかと言えば分かりにくい 4. 分かりにくい

御意見・御感想があればお聞かせください。

10. イベントポスター・チラシや当日配布したプログラム（冊子）のデザインについて御感想をお聞かせください。
（色、見やすさ、など）

[]

11. 本イベントについて、御意見・御要望などございましたらお聞かせください。
今後の参考にさせていただきます。

[]

12. 参加者様の性別・年代・御職業をお聞かせください。

【性別】 男性 女性

【年代】 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上

【御職業】

1. 会社員・会社役員（研究者・技術者・医療・福祉関係は除く）	7. 小学生・中学生・高校生
2. 研究者・技術者（専門　　　　　　　　　）	8. 大学生・大学院生（専門　　　　　　　　　）
3. 医療・福祉関係	9. パート・アルバイト
4. 教員（幼・小・中・高・大・大学院・その他（　　　　　））	10. 専業主婦・主夫
5. 公務員・団体職員	11. 無職・定年退職
6. 自営業	12. その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

御記入いただきありがとうございました。 8/20/2020

本アンケート用紙は回収ボックスに入れていただくか、お近くのスタッフまでお渡しください。

腦PRO